

府中市地区図書館の整備に関する基本方針(案)

(1) 文化センター併設図書館

No.	種別	内容
1	規模・面積	① 各地域に対して均一的なサービスを行うために規模・面積の検討を行う。 ・ 地区図書館間の規模・面積をなるべく揃えるべきか？（ただし、規模の拡大は困難。）
2	レイアウト・ゾーニング	① ユニバーサルデザインの考え方のもと、誰でも使いやすい図書館とする。 ・ 具体的な想定は何か？（通路幅や書架の位置・高さ、手すりの有無など） ② 地区図書館の利用者層を踏まえ、それぞれの世代が無理なく利用できる施設とする（高齢者や子ども、子育て世代などへの配慮）。 ・ 大人のエリアと子どものエリアを明確に区分けすべき？ ③ 読み聞かせ等の催しができるスペースを設ける。 ・ これを設けるためには書架を減らす必要がある。 ・ 読み聞かせを行っている最中は、その声が館内に響いてしまうが、他の利用者への配慮をどうすべきか？（読み聞かせを知らない方にアピールするためにも、館内で実施することに意味があると思う。） ④ 静かに読書ができるスペースを設ける。 ・ 閲覧席を整備する。 ・ 上記③との共存を可能にするためには、時間によるゾーニングが考えられる。 ⑤ 温かみがあり居心地のよい図書館にする。 ・ ハード面でどういったことができるか？ → 床はフローリング、書棚の材質は木にするなど。 ・ 地区図書館は面積が限られているが、居心地の良さを考えた場合、ある程度の書架を犠牲にしても、閲覧席やオープンスペースを設けるべきか？
3	設備	① 調べものや研究、電子図書館の閲覧等の際に必要であるため、Wi-Fiを整備する。 ・ 今後、文化センターについては、ロビーだけではなく、各諸室にも整備される予定である。 ② 「盗難防止装置（BDS）」及び「自動貸出機」は、コストや設置場所がクリアできれば設置する。 ・ 費用対効果、スペースの問題は避けて通れない。 ③ 『除菌機』は、全図書館に整備されているため、基本的には転用する。
4	書架	① 新しく整備する。 ・ 継ぎ足しをしてきたため不統一の部分があり、使い勝手が

		悪い書架もある。コスト面の検討は必要だが、新しくできるのであれば新しくすべきである。 ② 誰もが資料を簡単に手に取れるよう、書架の高さや形状の検討が必要である。 ・ 高さがあると見通しが悪くなるとともに、暗くなるため、あまり高くないよう配慮する。（中央図書館くらいが良いと思われる。） ・ カウンターからの見通しを考えて書架を配置すること。 ・ 児童コーナーの書架について、『円形タイプ』はメリット・デメリットがあるが、柔らかい感じをもたらすので、書架の新設を行う場合は検討すべきと考える。 ③ 耐震対策は必須である。
5	サービスカウンター、職員の執務環境	① 利便性や盗難対策等から、カウンターは入口近くに設ける。 ② カウンター上はなるべくスッキリさせる。 ・ 貸出し・返却カウンターは図書館の顔となるため、なるべく清潔でスッキリとさせたい。 ③ 閉架書架は必須である。 ・ 高さや通路幅は閉架書庫用とする。 ④ 予約本置場は必須である。 ⑤ 防犯上、一階の文化センター事務室に危険をすぐに知らせることができる仕組みがあると良い。
6	閲覧席	① いまでも多くの人が利用している閲覧席は必須であるが、数や形状等は十分に検討する必要がある。 ・ 一般向けの閲覧席は、新聞を読んだり、研究を行う人のために、ある程度の大きさの机は必須である。 ・ 高齢者の利用も多いため、軽く腰掛けられる椅子があると良い。 ・ 自習席を設けることは面積的に難しいため、閲覧席を充実させる。
7	明るさ	① 直射日光の影響を受けない工夫が必要である。 ・ 例えば、窓ガラスはクリアなガラスではなくスモークガラスにし、さらに調光が可能になるようにブラインドを整備する。 ② 照明はすべてLED化が望ましい。 ・ 書架の位置を考慮し、照明が配置できればベストである。 ・ 天井のみの照明で良いか？ ・ 書架照明は必要か？ ・ 照明の設置位置にも配慮が必要である。 ・ 場所によってはスポットライトの設置も検討すべき。
8	掲示板	① 利用者にイベントや注意事項等をお知らせするための掲示板は必要である。 ・ 図書館入口付近だけでなく、文化センターの入口にも設けられると良い。 ・ 目立つように、場所はもちろん、スポットライト等での照射も検討すべきである。

9	ブックポスト	① 文化センター1階の目立つ場所に整備する。 ・雨が入らないよう整備すること。 ・返却本の管理（盗難防止など）がしやすい場所に整備する。
10	蔵書構成	① 地区図書館の利用状況を分析し、利用に見合った蔵書構成にする必要がある。 ・中央図書館と同様の蔵書構成にすべきか？ 例えば、文化センターは複合施設であり、特に児童館と高齢者福祉館は予約なしで気軽に利用できる場所なので、児童書と高齢者向けの書籍（新聞や雑誌等）を重視するなど。 ・子どもの読書推進は重要であるため、児童サービスの基本となる資料は適切に揃える。（児童館（地域コミュニティ課所管）の設置基準として「図書室」が必置となっており、地区図書館がその役割を担っている。） ・地区図書館ごとに地域特性をいかした蔵書について検討し実施する。（例えば、宮町なら大國魂神社・国衙跡、押立なら川崎平右衛門など） ・児童館があるため、漫画の蔵書も検討したらどうか。
11	その他（懸案事項）	① 読書のための静かな空間と、読み聞かせのできるスペースの設置とは相反すると思うが、これをうまく融合するためにはどうすべきか？（時間によるゾーニングは可能か？） ② これまで読み聞かせ（おはなし会）は、文化センター内の部屋を借りて実施しているが、大勢の人を呼び込むためのイベント実施時などはそうすべきだが、乳幼児への読み聞かせであれば、図書館内で実施することも検討すべきではないか。親子・児童だけではなく、一般の方にも見ていただくことで読書に対する理解促進にもつながるのではないか。

(2) 生涯学習センター図書館

府中市文化・スポーツ施設配置等適正化計画（案）において、生涯学習センターの廃止後、新たに整備される総合体育館との複合化の方向性が示されている。

そのため、本協議会において生涯学習センター図書館の整備方針も検討すべきと考えるが、総合体育館の移設や近隣の整備も合わせ、大規模な検討となることが予想される。そのため、今年度ではなく、来年度以降に改めて生涯学習センター図書館のみをしっかりと検討することが望ましい。

(3) 宮町図書館

府中市本庁舎のはなれに移転することが決定しており、すでに実施設計も完了しているため、今回の基本方針（案）には含めないものとする。

『府中市立図書館運営方針』より

(2) 地区図書館の機能

ア 地域に密着した情報提供機能

地域住民のニーズをとらえ、各地域の風土や文化など特性を踏まえた資料を収集・保存し、市民に提供します。

イ 市内の他図書館の所蔵資料の取次機能

居住する地域に関わらず市民が等しく、市内の他図書館に所蔵する資料を活用できるように、各地区図書館を窓口として巡回配送した予約資料の貸出しを行います。

ウ 地域の活動団体などとの連携機能

地域の身近な情報拠点として、地域の活動団体や関係団体、施設などと連携し、資料や情報の収集・提供及びレファレンスなどを通じて、地域の課題解決を情報面から支援します。

9 資料の配架及び保存

(1) 資料の配架

開架、閉架の特性や状況を把握し、利用者に十分な資料の提供ができるような配架を行います。

(2) 資料の保存

資料は、府中市立図書館資料保存基準に基づき、次のことに留意しながら保存します。

中央図書館の閉架は、出納の利便性が高い固定書架と、収納効率の高い自動出納書庫を併用しています。これにより絶版により購入が困難な資料や、府中市で最後の1冊となる資料（実用書を除く）を収蔵し、地区図書館を含めた市立図書館全体の保存機能を担います。

地区図書館は中央図書館の閉架の機能を勘案しながら、基本的な資料を基盤とした出版年の新しい資料を開架で提供できるようにします。

『府中市文化センターのあり方に関する基本方針』より

エ 図書館

図書館は、多くの地域住民が世代を超えて利用する施設です。特別な目的を持たなくても入りやすく、本との出会いを促し、滞在することができる施設として整備します。

(7) 入口付近の棚は、圧迫感がない配置とし、話題の本を置くスペースを設けるなど、入りやすいように工夫して整備します。

(イ) 乳幼児や児童が利用するスペース、一般市民が利用するスペースを分け、多世代が同居できるように整備します。

(ウ) 施設内に読み聞かせ等の催しができるスペースを設けます。

(エ) 静かに読書ができるスペースを設けます。

(オ) 温かみがあり居心地のよい図書館にします。

『府中市文化スポーツ施設配置等適正化計画』より

観点	取組内容
配置	・現状の配置を維持します。
量	・地区図書館が併設されている施設の建て替え時期を踏まえ、当該施設の役割を整理し、機能・空間の在り方と併せて、施設規模や附帯諸室などの在り方を検討します。
	・第3次推進プランのモデル事業において、学校図書館との機能連携及び複合化等を検討します。
	・書架や書庫の容量不足が見込まれる場合は、蔵書数を精査するとともに、館内を機能転換するほか、市内の遊休公共施設や民間倉庫の活用を検討します。
機能・空間	・文化センター内の地区図書館は、府中市文化センターのあり方に関する基本方針に基づき、機能・空間を検討します。
	・宮町図書館は、市政情報公開室と機能統合の上、新庁舎はなれに移転します。
	・生涯学習センター図書館は、総合体育館との複合化に向け、市民から求められている「静かな空間・話すことができる空間」など、新たな機能・空間を検討します。
運営	・地区図書館が併設されている施設の建て替え時期を踏まえ、市民ニーズを踏まえたサービスの充実を図ります。

【図書館協議会委員からのご意見】

- ・ 府中市には、地区図書館が 12 館（文化センター10 館、生涯学習センター内 1 館、ふるさと府中歴史館内 1 館）あり、市域全域をカバーするように配置されている。一つの自治体の中に 12 館の地区図書館があることは、全国的にも評価でき、それだけきめ細かなサービスが提供できている。特に少子高齢化によって、身近にある施設の存在は、利便性を高めることになる。

「2023 地区図書館利用者アンケート集計表」からも高齢者の利用が多いことを見て取ることができる。中央図書館までは行けないが、地区図書館で長い時間を過ごす高齢者は多い。また、小さな子どもを連れて行くには、たいへん身近で、過ごしやすい空間になっている。歩いて行ける距離に図書館の拠点があり、市全体としてネットワークが組まれていて、欲しい資料や情報が速やかに手に入る空間として、地区図書館の必要性は高いと判断する。

「2023 地区図書館利用者アンケート集計表」で評価されている部分も多い。施設としては清潔感、照明（館内の雰囲気）などの評価は高い。運営面では、職員の対応の満足度はたいへん高く、職員の方々の親身な対応と日々の努力の結果と捉えたい。

なお、新刊書の充実や特集展示・行事への期待が大きいと同時に閲覧席・読書席の充実も求められている。また、バリアフリーへの対応や館内の空調等に対する不満が見て取れる。

また、『府中市文化センターのあり方に関する基本方針』の策定時に行われた「市民意識調査」「利用者アンケート」でも地区図書館への期待を読み取ることができる。

- ・ 地区図書館の中でも特に利用の多い図書館もあり、市民にとって地区図書館の必要性は高く、また、今後の整備の方向性のなかでも欠くことのできない施設として、その充実が求められている。そのためには、府中市全域をカバーしている点、市民の身近にある地域の情報拠点である点、そして、直営の職員が配置されており、中央図書館の基で統一された管理・運営がなされている点を評価する必要がある。なお、複合施設であり、他の施設との連携事業の推進、府中市の図書館の特色である学習室などの充実も検討の余地はある。

また、運営が会計年度任用職員で行われており、中央図書館でのバックアップ、職員研修の充実、そして官製ワーキングプアを生まないような労働条件の確保が必要である。

各地区図書館は、多くの市民に親しまれており、一館であっても廃止されることなく、その充実に努めてもらいたい。

- ・ 三畳くらいの狭いスペースで構わないので、対面朗読と図書の録音ができる防音設備のある部屋を作っていただきたい。
- ・ 地区図書館を中央図書館のサテライト図書館として分業体制をさらに明確化することが大切です。その為には地区は雑誌・新聞や児童図書などにこれまで以上にウエイ

トを置き、検索図書は中央に集中。リクエストにより取り寄せ館外貸し出しとします。それにより地区は蔵書スペースを節約し、オープンなスペースを確保して、快適な閲覧空間を拡大するようにします。

また、このオープンスペースは多目的空間として利用できるよう、Wi-Fi 環境を整備し、飲み物持参なども認めて旧来の図書館イメージを刷新してはいかがでしょうか。